



厚生労働省委託事業：感染症危機管理リーダーシップ人材育成事業

令和8年度「感染症危機管理リーダーシップ研修（長期）」がスタート！



(寄稿)危機管理・運営局 企画調整部 政策研究課 研究開発連携室

開講式

4月22日、JIHSにて「感染症危機管理リーダーシップ研修（長期）」の開講式が執り行われました。式には武井理事、俣野理事、四柳理事をはじめ多くの機構幹部が列席し、期待と激励の言葉が贈られました。今年度は神奈川県、埼玉県、滋賀県から選出された3名を研修生として迎え、いよいよ1年間にわたるプログラムが始動します。



後列左から：齋藤センター長、杉浦センター長、山田部長、高橋次長、今井課長、近藤参事
前列左から：厚労省五十嵐課長補佐、四柳理事、中井さん、石田さん、田上さん、武井理事、俣野理事

令和8年度研修生の意気込み



中井 綾 神奈川県 健康医療局 保健医療部 健康危機・感染症対策課

ダイヤモンド・プリンセス号の陽性患者を受け入れた医療機関との連携や、保健所・市町村での住民対応など、自治体の最前線で実務に従事してきました。不確実性の高い状況下において、どの情報をどのように分析し、組織としてどう意思決定をしていくのか、ということが自身の課題であると認識しております。本研修を通してその力を養いたいです。



石田 若葉 埼玉県 保健医療部 感染症対策課

ワクチンの検定業務や、治療薬の配分などに幅広く携わってきました。新型コロナ対応に携わる中で、私なりに現場を見てまいりましたが、振り返ってみますと、全体を俯瞰して判断し、周囲を動かしていくようなリーダーシップについては、まだ不足していると感じております。この1年でしっかり学びたいと思います。



田上 健吾 滋賀県 東京本部

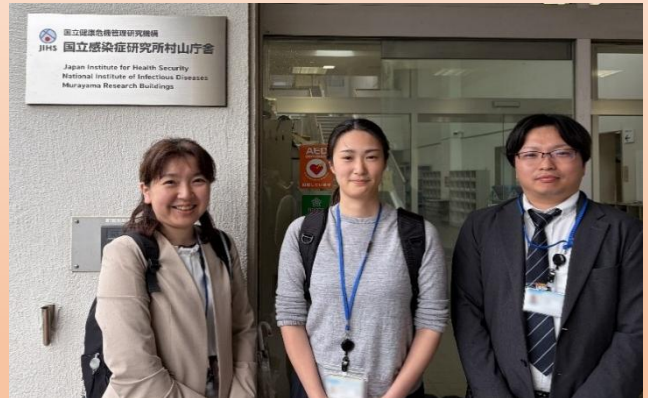
保健所配属直後から感染症対応にあたり、現場や本庁にて関係機関との調整が行われる姿を目の当たりにしてきました。特定の個人だけではなく対応することが困難。組織内外だけではなく、それぞれの立場で継続的に機能することが重要であると感じており、そのための視点を身につけたいです。

実践研修 On-the-Job Training がスタート！

OJTは、各受け入れ機関において1か月から数か月ずつ、合計1年間にわたり実践的な形式で行われます。初月となる4月には、国立感染症研究所での研修がスタートしました。4月27日には村山庁舎を訪問し、新型インフルエンザの検査体制やキャンパスの概要、バイオセーフティ、一種病原体に関する専門的な講義を受講。さらに、BSL-4実験室などの施設見学も実施され、最新の感染症対策の現場を肌で学ぶ充実した滑り出しとなりました。



三木主任研究員からBSL4（バイオセーフティレベル4）実験室の説明を受ける研修生



長期研修生ら（村山庁舎の入口にて）

次代の感染症危機管理を担う研修生たちの成長に、ぜひご期待ください！